



# 日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

MAY 2016  
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 50 no. 3

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

## 総会報告

2016年度定時総会は5月13日(金)午後4時30分から国際文化会館(東京都港区)にて開催された。

〔出席状況〕出席21社

委任状20社

計 41社

正会員47社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協会定款第31条の規定に基づき本総会は成立した。

河村総務委員(丸善雄松堂)の司会・進行により開会し、正田事務局長より総会出席状況(上記)および2015年度の会員動向が報告された。

会員動向:

入会:

(正会員) チャールズ・イー・タトル出版(7月)、フランス図書(10月)

アシェット・ジャポン(7月)、AKブックス(10月)、学術著作権協会(12月)

クロニクルブックス・ジャパン(4月)

(個人会員) マーク・グレシャム(9月)、渡邊正憲(1月)、長戸恵子(2月)

退会:

(正会員) ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社(11月)、雄松堂書店(2月)

MKインターナショナル(3月)、穂高書店(3月)、日本文献出版(3月)、緑書房(3月)

(賛助会員) 伊藤忠ロジスティックス(3月)

初めに相澤理事長(極東書店)から開会の挨拶・理事会報告及び各委員会の2015年度の活動内容と2016年の活動予定が報告された。(一部資料での説明)この中で熊本の震災に触れ、協会として義援金を送る旨の報告があり、了承された。

議案審議〔議長:相澤理事長〕

### 【2015年度決算報告】

滑川総務委員長(極東書店)より2015年度の決算内容の説明があり(\*1)、その後土方監事(丸善雄松堂)より監査報告がなされた。採決の結果2015年度の決算は承認された。

### 【2016年度予算案】

滑川総務委員長の内容説明(\*2)の後、採決の結果2016年度予算は可決、承認された。

また鶴氏からの質問のあった、繰り越し増分のサマーパーティー等への還元は理事会で協議する事とした。以上ですべての議事を終了し、鶴理事(東亜ブック)の挨拶を以て2016年度定時総会を閉会した。

### 【補足説明】

(\*1)予期しない事務所の移転があり、予算を超えた出費もあったが、前期繰越金は約267万円でスタートし、次期繰越金は約309万円で終わったので、2015年度は42万円近く繰り越しが増えた。

(\*2)これまでの活動を踏襲し活動内容を落とさないよう、全体として前期予算水準を維持。

雄松堂書店、UPS等大手の退会により会費収入減が見込まれる中、セミナー等はより充実できるように予算計上。

他の項目は予算計上従来通りとしたが、なるべく切りつめて全体として昨年度並みの決算に持っていきたい。

## 理事会報告 2016年3月29日(火)

出席（敬称略）相澤、松村、細谷、小松崎、深町、鶴（総務委員長・事務局）

理事会前に、丸善雄松堂(株)から東端、土方、讃井の三氏が見え、経営統合により雄松堂書店が消滅した旨の説明を受けた。

### 1. 予算状況

2月までの予算状況が事務局から報告され、予算化されていなかった事務所移転に係わる経費以外は予算内で推移しているとして、了承された。

### 2. 2016年度予算案

総務委員会案の各項目を検討の結果、了承された。

関西パーティーに関しては、関西の会員の参加は見込めないが、会員の関西の支店・営業所の方々の交流の場とする事とし、9月16日（金）に開催する。

### 3. 退会関連

- ・MKインターナショナルと穂高書店から出された退会届を受理する事とした。
- ・会費を滞納している緑書房の対処として定款第15条の5を適用し、退会とすることとし、ダイレクトリーとホームページから削除する。

### 4. 委員会報告

- ・総務委員会  
総会の司会は河村委員（丸善雄松堂）が行う。
- ・文化・厚生委員会  
アート見学会を行った。27名の参加があり、好評だった。  
鶴竜次氏が理事に就任したが、引き続き委員長をお願いすることとした。
- ・事業委員会  
次回のTIBFは9月23日（金）～25日（日）に行う。

## 海外ニュース

### 英国 Souvenir Press の『ナガサキ』がアンソニー・ルーカス賞受賞

スーザン・サウザード (Susan Southard) の『ナガサキ：核戦争後の人生』(Nagasaki: Life After Nuclear War) が、2016年のアンソニー・ルーカス賞を受賞した。同賞は、「アメリカで最も優れたノンフィクションにおくられる賞」である。

賞金一万ドル（約七千ポンド）のこの賞は、コロンビア大学ジャーナリズム大学院とハーバード大学ニーマン基金が管理運営している。

『ナガサキ』は、被爆者の飾らない、心に迫る証言によってつづられている。長崎に原爆が投下された直後から、その後の日々、長い年月を語る声を通して、世界で唯一原爆を

落とされ、生き延びた人間として耐えてきた「被爆者」の姿が立ち現れる。

サウザードは、被爆者の人生に寄り添い、何年もかけてインタビューを行なった。

審査員はこう語る。「簡潔かつ力強い文章で、著者は、あの言語を絶する体験を描きだし、読者を長崎に原爆が落とされたときと、その後の状況へといざなっていく。そこに痛烈な批判や主張はなく、ただあのような悲劇を二度とおこしてはならない、という思いを強く感じさせる」

『ナガサキ』は、英国Souvenir Pressから2015年11月に刊行された。

(The Bookseller online March 31, 2016)

情報提供：MHM 遠藤尚子

## 東京都庭園美術館 鑑賞会

3月10日木曜日、冬に逆戻りしたような寒くて曇り空の日でしたが、白金の重要文化財旧朝香宮邸に午後2時過ぎに集まった参加者たちは、日常とは少し違った豊かな時間を過ごせたのではないのでしょうか？参加者の約半分はここに来たのは初めてということでした。自由鑑賞の前に30分ほどレクチャールームで学芸員の板谷様からお話をいただきました。そのお話しは、建物と宮家のご家族に関する感動的な挿話がいくつもギュッと詰まっていて、軽妙な語り口の中にも庭園美術館に対する愛情と一人でも多くの人に来ていただき楽しんでいただきたいという熱意が伝わってくるものでした。「奇跡の館」「女の館」「アール・デコの館」「宮内省内匠寮」「妃殿下」「素材・デザイン」などの言葉が頭に残っています。1933年4月竣工当時の姿をこれほど良い状態で保っているアール・デコ様式の邸宅は世界的にも非常に貴重なものだそうです。そんなアール・デコの館でアール・ヌーヴォーを見るのがエミール・ガレ「ガレの庭」展でした。パッと見るととてもきれいなガラス製品ですが、植物と昆虫をとことん観察して作品のモチーフとしてデザインし

高度な技術で製作するという恐ろしいほどの執念を感じました。板谷様は広報担当学芸員ということでショップとカフェの宣伝にもぬかりはありません。ポストカード1枚でも、クリアファイル1枚でもという切実な願いもありましたが、良いショップとカフェがあるとちょっとだけ幸せな気分です。美術館を後にすることができます。長丁場の美術館改修工事は、本館改修と新館建設は終わっていますが、庭園の再整備とレストランの新築がこれからです。改修工事がすべて終わればどんなに魅力的な場所になるだろうと思います。行ったことがない方はもちろん、そうでない方も何度でも行く価値のある美術館だと思います。東京都心にこんな美術館があることは本当に幸せなことだと思います。1時間ほど自由鑑賞のあと、そぞろ歩きで数分のTender HOUSEに移動してからの懇親会ではお互いの話も弾みました。鑑賞会も懇親会も二次会も全部楽しんだ方が多かったようです。文化厚生委員会担当理事の細谷さん、委員長の鶴竜次さんたちの行動力と準備のおかげでこのような会を企画していただき参加できたことに感謝いたします。(H.F.)



## London Book Fair 2016

Last year in my short article about the London International Book Fair I concluded that “nothing beats a cup of coffee with friends and associates” at one of these events. My point, of course, is/was that there are many ways of maintaining contact and relationships other than the face-to-face type, but that a “real” meeting has great merit. Having been to and returned from a beautiful Spring London where thousands of people gathered to celebrate publishing – print and digital – my conclusion is the same: face-to-face meetings, even relatively short ones, are important. The reality is that probably only about 1/3 of my meetings were significant in terms of the information that was shared – new titles, new distribution, new publishers – but all of them, I realized were important from the “relationship management” point of view.

The Fair lasts for only three days and the first two are the busiest. In addition to publishers and booksellers there seemed to be a fairly large number of people who would be in the category of “general public” milling around the corridors. The venue is quite large but still it is extremely crowded and it’s often difficult to get from one place to another easily on those first two days. When I asked a trade publisher friend about all the people there he told me that there are, of course, many who are there to see what’s new and what’s coming but that there are also many who are trying to find someone to publish their book for them. They move from publisher to publisher, usually without appointments, and hope that they will receive some positive feedback on their literary or scholarly endeavor.

It’s interesting, I think, to note that the divide (or perhaps what was once perceived of as a divide) between digital and print is less obvious these days. Publishers and booksellers alike have become much more comfortable with the idea of providing content to readers in a form that the reader selects. If someone wants a book in its printed form it is

readily available. If they want it in any number of digital forms it is also readily available. And if they just want a part of it digitally then that’s possible too. I suspect that there will come a time when the reporting of sales will no longer be concerned over format (although it will continue to be important to keep careful watch, just as it has been with hardback and paperback editions.)

The scholarship which drives academic publishing continues to be impressive. It’s obviously still possible to say something new about Shakespeare or Keynes. And it’s motivating to know that, in addition to a few really large academic publishers whose publishing covers a wide spectrum of subject matter, there are still “specialist” publishers who devote their time and energy to very specific areas of interest. Similarly, in the areas of art/architecture/design there is an enormous output, not all of which will be marketable in all markets but of which there are gems to be had for Japan and other markets. Title selection relies on knowing one’s own customers and overall market requirements and being able to quickly focus on what is (and what is not) appropriate to that business. With only 30 minutes in most cases it can be a challenge in these meetings, but the professionalism of publishers who know their lists and their customer base, along with the experience of the booksellers who are seeking those “gems” means that in most cases the 30 minutes is both well-spent and productive.

マーク・グレスハム (個人会員)



# 2015年(平成27年)1月～12月 洋書輸入・輸出統計

藤村 裕二

3月に公表されました、2015年の「貿易統計」について報告させていただきます。このレポートは、財務省(関税局調査課)が毎月発表している「貿易統計」の中の「普通貿易統計」のデータから、絵本を含む洋書と外国雑誌、それに楽譜や地図、カレンダーなどを含む「印刷物」に関する2015年の統計を抜き出して整理したものです。「貿易統計」の元データは、<http://www.customs.go.jp/toukei/info/index.htm> から入手できます)

「貿易統計」は、1類の「動物」から97類の「美術品」まで品目毎に細かく分類されていますが、個々の品目は6桁の国際標準コード(H.S. Code)に日本独自の3桁を加えた9桁のコードで表されています。洋書や外国雑誌は49類の「印刷した書籍、新聞、絵画その他の印刷物並びに手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案」という項目に含まれており、49類の中は更に細分化されていますが、個々の品目は本文の各集計表をご参照ください。また、下記のサイトでは統計品目全体の詳細が確認できます。<http://www.customs.go.jp/toukei/sankou/code/code.htm>

それでは、具体的な統計内容に入っていきたいと思います。

## (1) 輸入額

### 1. 書籍・雑誌の輸入額

#### 1) 2015年の輸入額(表1)

書籍と雑誌の金額ベースでの構成比はおおよそ87%と13%で書籍の割合が昨年よりやや増えています。総額としては2014年に比べて約8%減少していますが、個々の金額のうち書籍に関しては3%の減少に留まったのに対して、雑誌に関しては30%と大きな減少となったことが、影響しています。また、完全なデータがないため表には出していませんが、一部の書籍では輸入数量(冊数)が15%程度減っていることも要因と思われます。一方で、2014年と2015年の為替相場の動きを見てみますと、ドルの年間平均レートが約14%の円安(ユーロは約4%の円高)となっていますので、単純に考えれば、原価が変わらなかつ

たとしても、輸入金額は増えるはずですが、統計に現れている金額(円)からは分かり難い原価ベースでの輸入額の減少があったのではないかと推測できます。この点については「為替」の項目で改めて触れたいと思います。

(表1) 2015年の書籍・雑誌関連品目の輸入額

(単位:百万円)

分類	品目	2014 輸入額	2015 輸入額	前年比	構成比
印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物および絵本	単一シートのもの	850	771	91%	3%
	辞典および事典	73	89	122%	0%
	その他のもの(書籍)	22,277	21,860	98%	72%
	幼児用の絵本及び習画本	3,814	3,478	91%	12%
	小計	27,014	26,198	97%	87%
新聞、雑誌その他の定期刊行物	1週に4回以上発行するもの	1	4	400%	0%
	その他のもの	5,635	3,964	70%	13%
	小計	5,636	3,968	70%	13%
合計		32,650	30,166	92%	100%

## 2) 最近10年間の輸入額の推移(表2)

2006年から2015年の10年間の推移を見てみますと、長期的な輸入額の落ち込みが顕著に表れているのが分かります。2006年を100とした場合、2015年の輸入額全体では58と半分近くに減少しています。個々に見ると、2010年に対して書籍が73とそこそこ大きく減少しているのに対して、雑誌は24と極めて大きな減少となっています。世間で言われている本離れが洋書の世界でも進んでいるということかと思いますが、雑誌に関してはやはり「電子化」が大きく影響しているのではないかと考えられます。前項で述べた2015年の輸入額と同じく、為替の影響以上に、10年というスパンでは原価ベースでも大きく減少しているものと推測されます。

(表2)最近10年間の書籍・雑誌関連品目の輸入額の推移

(単位:百万円)

品目	印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物および絵本										新聞・雑誌			合計					
	単一シート		辞典・事典		その他(書籍)		絵本		小計		輸入額	前年比	対2006	輸入額	前年比	対2006	輸入額	前年比	対2006
	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比									
2006	173	51%	154	64%	30,787	102%	4,546	111%	35,660	103%	100	16,259	106%	100	51,919	104%	100		
2007	307	177%	128	83%	29,580	96%	5,066	111%	35,081	98%	98	15,824	97%	97	50,905	98%	98		
2008	242	79%	179	140%	26,927	91%	3,881	77%	31,229	89%	88	13,300	84%	82	44,529	87%	86		
2009	221	91%	74	41%	22,920	85%	2,798	72%	26,013	83%	73	10,962	82%	67	36,975	83%	71		
2010	257	116%	107	145%	22,646	99%	2,636	94%	25,646	99%	72	9,137	83%	56	34,783	94%	67		
2011	469	182%	55	51%	21,643	96%	2,915	111%	25,082	98%	70	7,165	78%	44	32,247	93%	62		
2012	664	142%	64	116%	19,997	92%	3,072	105%	23,797	95%	67	5,983	84%	37	29,780	92%	57		
2013	680	102%	78	122%	21,845	109%	3,111	101%	25,714	108%	72	6,449	108%	40	32,163	108%	62		
2014	850	125%	73	94%	22,277	102%	3,814	123%	27,014	105%	76	5,636	87%	35	32,650	102%	63		
2015	771	91%	89	122%	21,860	98%	3,478	91%	26,198	97%	73	3,968	70%	24	30,166	92%	58		

## 3) 主要国・地域別の2015年と2014年の輸入額

次に、国別の輸入額について見ていきます。上位10カ国では昨年11位のイタリアが9位に上がり、7位のオランダが16位に大きく後退しています。(表3-a) オランダは特に雑誌が大幅に減っていますが、電子化に加えて倒産したスエツ社の影響もあるのかも知れません。この10ヶ国で書籍は輸入総額の94%、雑誌は98%を占めており、引き続き輸入先が上位の国々に固定化している状況です。また、上位10ヶ国の2015年の輸入額は2014年に比べて、書籍が5%、雑誌が17%減少し、総額でも7%の減少となっています。

11位～30位の国々(表3-b)に関しても若干の順位の入替わりがありました。昨年31位以下だった、アラブ首長国連邦が29位となり、一方で30位だったフィンランドが31位以下となりました。輸入総額に対するこれらの20ヶ国の構成比は5%程度ですが、2014年の輸入額と比べると上位10ヶ国以上の22%の減少となっています。また、地域別の輸入額に関しては、米国と英国に加えてユーロ圏(19ヶ国)、東アジア(中国、香港、台湾、韓国、モンゴル)、東南アジア(ASEAN10ヶ国+インド、パキスタン、ネパール)の輸入金額を集計しています。(表3-c) この中では特に、東アジア各国からの輸入が増えているようです。尚、この集計は主に輸入額の国別の順位を相対的に見るためのものですので、為替の影響に関しては考慮していません。

(表3-a)2015年の書籍・雑誌輸入額の上位10ヶ国

(単位:百万円)

順位	品目	書籍・辞典・絵本				新聞・雑誌・その他定期行物				合計			
		2014	2015	前年比	構成比	2014	2015	前年比	構成比	2014	2015	前年比	構成比
		国名											
1	米国	7,404	7,422	100%	28%	2,668	1,977	74%	50%	10,072	9,399	93%	31%
2	英国	5,483	5,171	94%	20%	1,151	1,111	97%	28%	6,634	6,282	95%	21%
3	中国	7,208	6,152	85%	23%	84	69	82%	2%	7,292	6,221	85%	21%
4	ドイツ	1,922	1,583	82%	6%	27	26	96%	1%	1,949	1,609	83%	5%
5	香港	1,001	1,122	112%	4%	94	95	101%	2%	1,095	1,217	111%	4%
6	フランス	757	985	130%	4%	127	109	86%	3%	884	1,094	124%	4%
7	シンガポール	474	634	134%	2%	267	256	96%	6%	741	890	120%	3%
8	韓国	947	699	74%	3%	166	148	89%	4%	1,113	847	76%	3%
9	イタリア	177	473	267%	2%	116	111	96%	3%	293	584	199%	2%
10	マレーシア	343	276	80%	1%	0	2	***	0%	343	278	81%	1%
	小計	25,716	24,517	95%	94%	4,700	3,904	83%	98%	30,416	28,421	93%	94%
	その他の国々	1,298	1,681	130%	6%	936	64	7%	2%	2,234	1,745	78%	6%
	合計	27,014	26,198	97%	100%	5,636	3,968	70%	100%	32,650	30,166	92%	100%

(表3-b)2015年の書籍・雑誌輸入額の11位～30位の国々

(単位:百万円)

順位	品目	2014年輸入額		2015年輸入額			前年比
		金額	順位	書籍	新聞・雑誌	合計	
1～10	上位10ヶ国合計	30,416	(1～10)	24,517	3,904	28,421	93%
11	オーストリア	13	26	228	3	231	1777%
12	台湾	260	12	183	13	196	75%
13	ベトナム	26	21	188	0	188	723%
14	タイ	118	15	148	0	148	125%
15	スイス	114	16	144	3	147	129%
16	オランダ	981	7	115	12	127	13%
17	ブラジル	160	13	102	17	119	74%
18	ポーランド	26	20	112	3	115	442%
19	アイルランド	109	17	98	0	98	90%
20	カナダ	63	18	69	2	71	113%
21	フィリピン	14	25	52	0	52	371%
22	ベルギー	151	14	38	0	38	25%
23	スペイン	25	22	35	1	36	144%
24	インド	41	19	30	3	33	80%
25	ハンガリー	11	28	19	0	19	173%
26	ロシア	22	24	17	1	18	82%
27	インドネシア	11	27	16	0	16	145%
28	オーストラリア	11	29	11	4	15	136%
29	アラブ首長国連邦	0	***	12	1	13	***
30	スウェーデン	22	23	11	0	11	50%
	小計	2,178	----	1,628	63	1,691	78%
	その他の国々	56	----	53	1	54	96%
	合計	32,650	----	26,198	3,968	30,166	92%

(表3-c) 2015年の米国・英国と地域別の書籍・雑誌の輸入額

(単位:百万円)

品目	米国	英国	ユーロ圏	東アジア	東南アジア	その他の国々	合計
書籍類	7,422	5,171	3,576	8,157	1,344	528	26,198
雑誌類	1,977	1,111	263	325	260	32	3,968
合計	9,399	6,282	3,839	8,482	1,604	560	30,166
2015年構成比	31%	21%	13%	28%	5%	2%	100%
前年比	93%	95%	87%	87%	124%	121%	92%
2014年実績(合計)	10,072	6,634	4,426	9,760	1,295	463	32,650
2014年構成比	31%	20%	14%	30%	4%	1%	100%

## 2. 書籍・雑誌以外の品目の輸入額

表4は、49類に含まれる品目のうち、書籍や雑誌以外の品目についての集計です。印刷物と言っても、設計図やデカルコマニアといった、洋書業界とはあまり縁のない品物も含まれています。10年前(2006年)と比べて大幅に増えていますし、金額的には書籍・雑誌に比べてかなり大きなものですが、49類に定められた品目の中に分類できない雑多なもの、「その他の印刷物」の中の「その他のもの」(残念ながら具体的な内容は不明です)が多いような状況です。詳細は表をご参照ください。

(表4) 2015年の書籍・雑誌以外の印刷物の品目別輸入額

(単位:百万円)

品目	内訳	2006年	2014年	2015年	対	対
		輸入額	輸入額	輸入額	2014年	2015年
楽譜		727	484	640	132%	88%
地図、海図、地球儀		1,028	985	950	96%	92%
設計図及び図案		133	40	701	1753%	527%
郵便切手・収入印紙など		4,997	13,134	71	1%	1%
デカルコマニア(※)		1,134	1,437	1,427	99%	126%
葉書、印刷したカードなど		1,703	2,596	2,674	103%	157%
カレンダー	紙製または板紙製	2,827	2,957	2,883	97%	102%
	その他のもの	227	108	122	113%	54%
	小計	3,054	3,065	3,005	98%	98%
その他の印刷物	広告、商業用カタログ	8,967	9,305	10,280	110%	115%
	写真	2,066	2,239	2,548	114%	123%
	絵画、デザイン	2,441	1,839	2,048	111%	84%
	その他のもの	17,260	80,321	41,506	52%	240%
	小計	30,734	93,704	56,382	60%	183%
合計		43,510	115,445	65,850	57%	151%

※ デカルコマニア: 転写印刷の技法そのものやこの転写に使う印刷された特殊な紙(原版)のこと。

## (2) 輸出額

2015年の書籍・雑誌の輸出額(表5-a)は2014年と比べて約5%の減少となっています。ただし、輸出決済に使用される通貨比率の直近の集計で米ドルが54%を占めており、更に2015年は2014

年に対してドルは約14%の円安となっていますので、原価ベースでは更に減少しているのではないかと推測されます。また、輸入とは異なり、最近10年間の輸出額の推移は、若干の上下はありますが、ほぼ横ばいと見ることができると考えられます。(表5-b)

合わせて、最近10年間の書籍・雑誌の輸入額と輸出額の比率の推移を見てみますと、概ね輸入7に対して輸出3という状況が続いています。(表6)

(表5-a) 2015年の書籍・雑誌関連品目の輸出額

(単位:百万円)

分類	品目	2014 輸出額	2015 輸出額	前年比	構成比
印刷した書籍、 小冊子、リーフレットそ の他これらに 類する印刷物 および絵本	単一シートのもの	1,488	1,772	119%	11.9%
	辞典および事典	15	13	87%	0.1%
	その他のもの(書籍)	11,248	10,449	93%	69.9%
	幼児用の絵本及び習字本	48	66	138%	0.4%
	小計	12,799	12,300	96%	82.3%
新聞、雑誌 その他の 定期刊行物	1週に4回以上発行するもの	2	2	100%	0.0%
	その他のもの	2,891	2,636	91%	17.6%
	小計	2,893	2,638	91%	17.7%
合計		15,692	14,938	95%	100.0%

(表5-b) 最近10年間の書籍・雑誌関連品目の輸出額の推移

(単位:百万円)

品目	書籍・辞典・絵本		新聞・雑誌・ その他定期刊行物		合計	
	輸出額	前年比	対 2006	輸出額	前年比	対 2006
2006	11,159	108%	100	4,580	100%	100
2007	11,831	106%	106	4,810	105%	106
2008	10,816	91%	97	4,717	98%	99
2009	11,358	105%	102	4,593	97%	101
2010	14,425	127%	129	4,974	108%	123
2011	10,608	74%	95	4,305	87%	95
2012	9,933	94%	89	3,609	84%	86
2013	12,203	123%	109	3,306	92%	99
2014	12,800	105%	115	2,892	87%	100
2015	12,300	101%	110	2,638	80%	95

(表6) 最近10年間の書籍・雑誌の輸出入額比率の推移

(単位:百万円)

年度	輸 入		輸 出	
	金 額	比 率	金 額	比 率
2006	51,919	77%	15,739	23%
2007	50,904	75%	16,641	25%
2008	44,529	74%	15,533	26%
2009	36,975	70%	15,951	30%
2010	34,783	64%	19,399	36%
2011	32,247	68%	14,913	32%
2012	29,780	69%	13,542	31%
2013	32,163	67%	15,509	33%
2014	32,650	68%	15,692	32%
2015	30,166	67%	14,938	33%

## (3) 為替

表7はここ5年間の主要6通貨のレートの変動を示したものです。対象通貨は、財務省が半年毎に発表している「貿易取引通貨別比率」においてほぼ99%を占める7通貨から円を除いた6通貨です。貿易取引で使用される通貨は約95%が米ドルと円で占められており、他の通貨はユーロや英国ポンド、スイスフランですが、ここ5年ほどの間に英国ポンドやスイスフランの比率は下降している状況となっています。一方で、人民元やタイバーツが一定の比率で加わるようになりましたので、今回からこの表の対象通貨も6通貨としています。表からは、アベノミクスや日銀の異次元緩和によるものと思われそうですが、2015年にかけて急激な円安が進んでいるのが確認できます。ただし、この表にはありませんが、ご承知の通り、直近では一転して円高傾向が続いています。

「貿易統計」は、財務省(税関)が公示した「税関長公示レート」(輸入申告の日の属する週の前々週の、実勢外国為替相場の当該週間の平均値)によって外貨から換算した円貨の金額にもとづいて集計されていますので、表面的には為替の影響が見えにくくなっています。つまり、統計に現れる金額の変化は、値上がりも含めた原価(外貨)の増減による部分と為替レートの変動による部分が合算されたものであるため単純な動きとしては捉えられないという状況があります。

こうした為替の動きが貿易統計にどのような形で反映しているのかを見るため、「貿易取引通貨別比率」をもとに、年度毎の通貨別の輸入額(円)を算出し、更にその年度の平均為替レートから輸入原価(計算原価)を算出してみました。表8は、この輸入額と輸入原価(計算原価)に、「貿易取引通貨別比率」を加味した対前年比の加重平均値を加えたものです。あくまでも計算上の数値であり、参考値として見ていただければと思いますが、貿易統計の輸入額と原価の変動の違いが確認できるかと思えます。例えば2015年は2014年に比べて単純な輸入額(円)は8%の減少となっていますが、原価(加重平均)では0.85(15%減)と更に減少していることが確認できます。また、2014年では輸入額が1.02と伸びているのに対して原価は0.97と減少しています。このように、輸入額の増減は為替による影響が大きく、輸入額が増えたとしても、実態として、原価ベースでは減ってい

る(輸入量は減っている)ものと推測できます。前段で、2015年の輸入額が原価ベースでは統計に見えている以上に減少していると推測しましたが、この表の数値が一つの根拠になるのではないかと思います。

最初に述べました通り、このレポートでは、財務省が発表している「貿易統計」(「普通貿易統計」)のデータを対象にしています。この「貿易統計」に対して、同じく財務省が発表している「国際収支統計」の一項目である、「貿易収支」は「貿易統計」を基礎資料として作成されていますが、両者にはいくつかの点で相違があります。「国際収支統計」は、大きく「経常収支」と「資本収支」、「外貨準備増減」に分かれており、「貿易収支」は「サービス収支」や「所得収支」と同じく「経常収支」の中の一項目です。

「貿易統計」と「貿易収支」は、集計に使う建値と数値の計上のタイミングに違いがあります。「貿易統計」は、輸出はFOB(本船渡し条件)、輸入はCIF(運賃・保険料込み条件)で集計されますが、「貿易収支」は物とサービスの取引を区別して計上されるため、輸出入ともFOBで集計され、輸出入の際の運賃や保険料、諸経費は「サービス収支」として計上されます。また、「貿易統計」が、輸出は「積載船舶等が出港した時点」、輸入は「輸入許可の時点」で計上されるのに対して、「貿易収支」は「所有権が移転した時点」で計上されます。因みに、前段の為替に関連しますが、短期的な為替変動の要因として、金利の変動や経済指標の発表、中央銀行の市場への介入といった点が挙げられ、一方で、諸説あるようですが、長期的な要因の一つとしてこの国際収支の影響があげられます。国際収支が黒字であればため込んだ外貨(主にドル)を円に替える(買う)ため円高になるという理屈です。また、政府(内閣府)が景気の動きに関して毎月公式見解を示す「月例経済報告」をとりまとめる際の経済指標の一つとしてこの「国際収支」や「貿易統計」が参考にされています。

(表7) 主要通貨の為替レートの変動

通貨	年度	年平均レート														
		2011			2012			2013			2014			2015		
		TTS	TTS	前年比	TTS	前年比	TTS	前年比	TTS	前年比	TTS	前年比	対2011			
米ドル(USD)	80.84	80.82	100%	98.65	122%	106.85	108%	122.05	114%	151						
ユーロ(EUR)	112.62	104.13	92%	131.18	126%	141.92	108%	135.81	96%	121						
英ポンド(GBP)	132.06	130.49	99%	156.70	120%	178.21	114%	189.10	106%	143						
スイスフラン(CHF)	91.10	86.06	94%	106.25	123%	116.52	110%	126.85	109%	139						
中国人民元(CNY)	12.75	13.03	102%	16.20	124%	17.49	108%	19.52	112%	153						
タイ・バーツ(THB)	2.70	2.65	98%	3.26	123%	3.34	102%	3.62	108%	134						

(注1) 対象通貨は財務省発表が発表している「貿易取引通貨別比率」(輸入金額比率)の円を除く上位6通貨

(注2) レートは、三菱東京UFJ銀行が発表している各通貨の月平均相場の単純平均

(表8) 書籍・雑誌の通貨別輸入額と計算原価の推移および「貿易取引通貨別比率」にもとづく対前値加重平均

(単位 輸入額: 100万円 原価: 1,000ユニット)

年度	2010		2011				2012				2013				2014				2015			
	輸入額(円)	計算原価	輸入額(円)	対前	計算原価	対前																
合計	34,783	***	32,247	0.93	***	***	29,780	0.92	***	***	32,163	1.08	***	***	32,650	1.02	***	***	30,166	0.92	***	***
米国ドル	24,939	283,113	23,298	0.93	291,340	1.03	21,769	0.93	269,354	0.92	23,897	1.10	242,241	0.90	24,079	1.01	225,357	0.93	21,252	0.88	174,125	0.77
円	8,209	8,209	7,465	0.91	7,465	0.91	6,686	0.90	6,686	0.90	6,626	0.99	6,626	0.99	6,742	1.02	6,742	1.02	6,999	1.04	6,999	1.04
ユーロ	1,113	9,493	1,016	0.91	9,120	0.96	879	0.86	8,437	0.93	1,094	1.24	8,336	0.99	1,159	1.06	8,167	0.98	1,116	0.96	8,218	1.01
英国ポンド	104	747	64	0.62	488	0.65	60	0.92	456	0.93	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
スイスフラン	122	1,431	97	0.79	1,062	0.74	89	0.92	1,038	0.98	113	1.26	1,059	1.02	131	1.16	1,121	1.06	75	0.58	595	0.53
中国人民元	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	48	0.00	2,978	0.00	163	3.38	9,334	3.13	226	1.39	11,590	1.24
タイ・バーツ	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	32	0.00	9,866	0.00	0	0.00	0	0.00	60	0.00	16,666	0.00
その他	296	0	306	1.04	0	0.00	298	0.97	0	0.00	402	1.35	0	0.00	539	1.34	0	0.00	437	0.81	0	0.00
加重平均	***	***	***	***	***	1.00	***	***	***	0.92	***	***	***	0.92	***	***	***	0.97	***	***	***	0.85

(注) 「貿易取引通貨別比率」は貿易取引(輸入)全体の金額ベースの比率で、貿易統計に計上されたデータのうち貿易取引通貨が判明しているデータにもとづいて作成されています。

(表9) 国公私立大学における図書館資料費に占める海外出版物の購入金額の推移

(単位百万円)

媒体	年度	平成21年(2009年)		平成22年(2010年)		平成23年(2011年)		平成24年(2012年)		平成25年(2013年)		平成26年(2014年)		
		金額	対前	金額	対前	対平成21年								
冊子	洋書	8,818	88%	8,019	91%	7,560	94%	7,409	98%	7,231	98%	6,815	94%	77
	外国雑誌	14,751	74%	12,599	85%	11,473	91%	10,060	88%	9,928	99%	10,445	105%	71
	合計	23,569	79%	20,618	87%	19,033	92%	17,469	92%	17,159	98%	17,260	101%	73
電子	電子ジャーナル	18,992	128%	19,680	104%	20,821	106%	21,832	105%	23,609	108%	26,396	112%	139
	電子書籍	---	---	455	---	470	---	640	136%	615	96%	692	113%	---
	DB	---	---	3,181	---	3,421	---	3,559	104%	4,164	117%	4,300	103%	---
	合計	18,992	128%	23,316	123%	24,712	106%	26,031	105%	28,388	109%	31,388	111%	165
合計	42,561	95%	43,934	103%	43,745	100%	43,500	99%	45,547	105%	48,648	107%	114	
その他(参考)	7,827	112%	3,560	45%	3,255	91%	3,167	97%	2,837	90%	2,684	95%	34	
図書館資料費総額(国内含む)	73,782	99%	71,551	97%	70,518	99%	69,547	99%	70,554	101%	72,966	103%	99	

## (4) 参考資料

最後に、昨年ご紹介しました文部科学省が発表している「学術情報基盤実態調査」の数値を参考までにご覧いただければと思います。表9は平成26年度(27年度調査)までの、洋書と外国雑誌、電子ジャーナル、電子書籍(e-Book)等の図書館資料費の集計です。冊子から電子への移行の顕著な実態や、「貿易統計」と同じく円安の影響もあるものと思われるが、書籍や雑誌の輸入

額が年々減少している状況を裏付けるデータの一つとしても見ることはできないのではないのでしょうか。尚、平成27年度調査のデータは以下のサイトでご覧いただけます。[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/28/03/1368704.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/03/1368704.htm)

以上、2015年の貿易統計について、簡単ではありますが、報告させていただきます。不明な点や誤り、ご意見等がありましたら事務局までご一報いただければ幸いです。



日本最大の本の祭典

# 第23回 東京国際ブックフェア

※一部例外を除く

あらゆるジャンルの本を特別価格で購入できます

会 期: 2016年9月23日[金]～25日[日]

時 間: 10:00～18:00

会 場: 東京ビッグサイト

主 催: 東京国際ブックフェア実行委員会  
リード エグジビション ジャパン株式会社



本展の招待券を  
もれなくプレゼント!

(招待券をお持ちでない場合は入場料(¥1,200)がかかります。)

プレゼントの応募は下記のホームページより

[www.bookfair.jp/inv/01/](http://www.bookfair.jp/inv/01/)

※会期間近のお申込みの場合、「招待券引換証」をお送りします。

リード エグジビション ジャパン株式会社  
「東京国際ブックフェア招待券プレゼント係」  
〒163-0570 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル18階  
TEL: 03-3349-8507 FAX: 03-3344-2400

## 洋書バーゲンコーナー

主催: 日本洋書協会

美術・建築・デザイン・写真・ファッション・料理・絵本から旅行・スポーツ・音楽・語学・専門書まで広範囲にわたり、約1万点、5万冊以上の洋書を東京国際ブックフェア会期中に限り特別割引価格にて販売します。ぜひ、お越し下さい。

●お問合わせ先: 日本洋書協会  
TEL: 03-3518-9631

最新情報はホームページで [www.bookfair.jp](http://www.bookfair.jp)

ブックフェア

検索

日本洋書協会会報 vol.50 No.3(通算540号) 発行日2016年6月1日 編集者 松野 夏生

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523  
URL: <http://www.jaip.jp> E-mail: [office@jaip.jp](mailto:office@jaip.jp)